

平成 25 年度 事務事業マネジメントシート [事後評価]

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	06	01	04	0401	農畜産物生産向上事業

事業期間	<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返	<input type="checkbox"/> 期間限定	[平成 年度 ~ 平成 年度]
------	---	-------------------------------	-----------------

《事業目的》

畜産物の価格安定

《事業開始の背景》

乳用牛群検定の利用促進を図り経営分析の一助とするため。
畜産物の価格安定制度の生産者負担分の一部を負担し価格安定制度の加入を促進するため。

《事業概要》

- 養豚経営安定対策事業
生産者の負担を軽減するため、積立金に対し助成
- ブロイラー価格安定対策支援
生産者の負担を軽減するため、積立金に対し助成
- 家畜改良増殖対策支援
効率的な飼養管理のため、乳用雌牛群の検定普及および後代検定
- 大家畜経営活性化資金利子補給

市民参画の有無 [対象外]

《事業展開の留意事項》

《成果指標》

項目	単位	区分	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(計画)
① 生産乳量	t	目標	5,050	5,268	
		実績	5,091	5,385	
② 肉豚出荷頭数	頭	目標	34,000	33,000	
		実績	34,331	31,615	
③ ブロイラー出荷羽数	千羽	目標	2,010	166	
		実績	2,010	422	

分野	担当部(機関)	担当課(機関)	担当係長	(内線)
しごと	農林部	農政課	藤原康司	6-296

	25年度	当初(現計)	補正	25年度	26年度
事業費	4,416				
財源内訳	国県支出金	484			
	地方債				
	その他				
	一般財源	3,932			

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること

○養豚経営安定対策 3,799千円

- 養豚基金の概要(1頭あたり2,000円積立)

- 補てんの仕組み
(保証基準価格 - 枝肉平均価格) × 77kg × 80% × 補てん対象肉豚数
- 積算根拠 生産者負担の1/8を補助 (1,000円 × 1/8 = 125円)

	契約頭数	積立単価	補助金
系統	15,429	125円	1,929千円
商系	10,160		1,270千円
直接	4,800		600千円
計	30,389		3,799千円

○ブロイラー価格安定対策 132千円

- 補助金額: 1羽あたり積立金5円の0.5/8(0.3125円)を助成

	補助率	助成金額
県	1/8	0.6250円
市	0.5/8	0.3125円
生産者	3/8	1.8750円
ブロイラー組合	3.5/8	2.1875円
計		5.0000円

0.3125円 × 422,000羽 = 132千円

補てん金 (保証基準価格 - 指標価格) × 90% × 補てん対象羽数

○家畜改良増殖対策(乳用牛群検定) 484千円

乳用牛雌牛群の能力検定及び検定農家の指導を行い、乳用牛の飼養管理の改善を図るとともに、後代検定に係る調整交配を行い、泌乳能力等、優秀な能力を有する雌牛群の選抜確保を行う。

花巻乳用牛群検定推進協議会が行う乳用牛群検定に係る経費の44.2%以内(県補助)

○大家畜経営活性化資金利子補給金 1千円

平成6年度大家畜経営活性化資金融資への利子補給金(最終償還年 平成26年)

平成 25 年度 事務事業マネジメントシート [事後評価]

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	06	01	04	0401	農畜産物生産向上事業

総合計画	政策	地域資源の連携強化で産業振興のまちづくり	施策	2次・3次産業との融合による強い1次産業の育成
	1		1-1	
目的	畜産物の価格安定			
対象	市内の酪農業、養豚業、養鶏業			
意図	<ul style="list-style-type: none"> 生産乳量・乳質の改善、向上 養豚業・養鶏業の経営安定 			

《事業概要》…上記目的を実現するための事業手法を記載すること

- 養豚経営安定対策事業
生産者の負担を軽減するため、積立金に対し助成
- ブロイラー価格安定対策支援
生産者の負担を軽減するため、積立金に対し助成
- 家畜改良増殖対策支援
効率的な飼養管理のため、乳用雌牛群の検定普及および後代検定
- 大家畜経営活性化資金利子補給

市民参画の有無 [対象外]

市民協働の形態	<input type="checkbox"/> 共催	<input type="checkbox"/> 実行委員会・協議会	<input type="checkbox"/> 事業協力・協定
	<input type="checkbox"/> 後援・協賛	<input checked="" type="checkbox"/> 補助・助成	<input type="checkbox"/> 委託

活動指標（上記「事業概要」に対応）	単位	区分	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(計画)
① 乳用牛群検定頭数	頭	計画	800	800	
		実績	671	615	
② 養豚経営安定対策対象頭数	頭	計画	24,000	33,000	
		実績	32,981	30,389	
③ ブロイラー価格差補填対象羽数	千羽	計画	2,010	166	
		実績	2,010	422	
成果指標（上記「意図」に対応）	単位	区分	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(計画)
① 生産乳量	t	目標	5,050	5,268	
		実績	5,091	5,385	
② 肉豚出荷頭数	頭	目標	34,000	33,000	
		実績	34,331	31,615	
③ ブロイラー出荷羽数	千羽	目標	2,010	166	
		実績	2,010	422	

要因分析

達成度 目標値より高い 概ね目標値どおり 目標値より低い

猛暑の影響により飼養する家畜に影響を及ぼした。
ブロイラー出荷羽数については、1農場の施設改修が予定より早く終了し出荷羽数が目標より増加した。

《環境変化、意見・要望》…環境変化はないか？ 意見や要望が寄せられていないか？

東日本大震災による飼料、燃料の不足や、猛暑の影響があり、家畜の飼養環境が激変した。

目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 公共関与の妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input type="checkbox"/> 妥当でない	国の補助事業により、乳用牛の改良を推進している。豚肉・鶏肉の価格形成は不安定であるため、県・市町村・生産者団体が一体となって価格下落時の生産者へ及ぼす影響を緩和策を講じている。
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 成果の向上余地 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 向上余地がない	乳用牛群検定（能力検定）への参加による高能力牛の確保により目標生産乳量が維持される。豚肉・鶏肉の価格差補てん事業により、価格下落時への対応が可能となっている。
効率性	<input type="checkbox"/> 事業費・人件費の削減余地 <input type="checkbox"/> 事業費の削減余地がある <input type="checkbox"/> 人件費の削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> どちらも削減余地がない	家畜改良増殖対策事業は県事業であり、補助率は県要綱で規定されている。また、肉豚価格差補てん事業・ブロイラー価格差補てん事業は養豚業及び養鶏業に対する市の唯一の事業である。当該事業は県及び市の事業であり、事業申請から補助金支出までの一連の流れに基づき事務を行っている。
公平性	<input type="checkbox"/> 受益機会の見直し余地がある <input type="checkbox"/> 費用負担の見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適正である	事業実施しようとする酪農家、養豚業者、養鶏業者を対象としている事業であり公平である。

《総合評価》…上記評価結果の総括

効率的で生産性の高い経営体の育成を図るために、乳用牛群検定事業を行い、高能力牛の確保及び飼養管理の改善がなされた。
養豚業者、養鶏業者の経営安定を図るために、価格差補てん事業を行い、価格下落時への対応がなされた。